

同級会だより

首都圏の相生会

夏が終わりを告げ、さわやかな秋風が吹きはじめると、恒例のクラス会がカレンダーの陰から人懐っこい笑顔をのぞかせる。早速、会場を都内のホテルに設定、案内状を送った。ほぼ全員から返事が来た。近況報告は悲喜交々。体調不良で欠席の友は、無念さが行間に滲み出ていた。体調不良から開放され復帰する友は、再会の喜びが溢れていた。

復帰者の圧巻は車椅子での参加。看護師とヘルパーを伴い馳せ参じるといふ。あの戦国時代に身体の障害をいとわず、関ヶ原に出陣した西軍の智将大谷吉継を彷彿させ壮絶。すぐさまホテルに連絡、ぬかりのない

一二美会便り

十五年五月十一日、軽井沢塩壺温泉に十五人が集まりました。外に二人の方が急な病気で怪我の為に欠席となり残念でしたが、昨年の稲子の湯以来一年振りのなつかしさに和気あふいと語り合い、ゆっくりと湯の香に浸りました。翌日は近くの森を散策して遅い桜の花盛りやつつじの花を見たりして新緑の山路に森林浴を楽しみました。

まっちゃんさんが熟練の七宝焼で作った素敵なペンダントを参加者全員にお土産として下さったので一同大喜びでした。お当番のご苦労に感謝しつつ来年を約して散会。来年は岩村田が当番です。乞う御期待！



(佐藤記)

君が元気な顔を見せた。苦境にめげず車椅子で馳せ参じた友への不安も付き添うプロの手慣れた介護をみて杞憂に終わった。いつとき、会場に複雑な思いが走ったがクラス会への熱い思いに心をうたれ、一緒にその勇気とかわらぬ友情に胸を詰まらせた。老いを自然の摂理と受けとめ、今をグチる声はなかった。例により、年と共に遠ざかり

いく青春を手繰り寄せ、あの日に戻り、昔話と健康談義に花を咲かせ、日頃の憂さを忘れ旧交を温めた。今回は、故郷に錦を飾る土屋君の送別の宴、また何時も遠路、新幹線を飛ばす井上君から参加者全員に自著のエッセイ集「故山悠久」(信濃毎日新聞社版)の贈呈があり、同君の初の上梓

東京でのクラス会

十月十四日、東京駅ホームの雑踏の中になつかしい友の顔々、やっばり皆さん来てくれたのだと胸が熱くなった。卒業以来五十数年振りにはじめてという京都からの友が加わり東京組と併せて十三名のクラス会の始まり。

今回は東京組の当番と決まっていたから、あれこれ相談の結果一日目は「はとバス」で浅草散策とハーバークルーズのコースを選び、十時に東京駅前を出発。限られた時間の中の行動となり先ず浅草寺参詣、江戸開府四百年記念行事としての境内の催しがあり江戸情緒に触れたひと時、嬉々とした友たちは女生徒に返つ



(若女37回卒 中島安子)

万感・あの戦中 戦後を追想

おめでとう連綿八十年— すこやかに時を超えて—

西暦が二〇〇〇年に、私たちの年齢が七〇歳に達した年の十月、同期一同が内山の初谷温泉に集まった。途上母校に立寄り、時の教頭先生から一書を頂戴し、長洲先生の銅像を囲んで写真を撮った。シャッターを押して呉れたのは、逆光に類の産毛が光る女生徒が二人。現役時代は男女峻別、卒業後稀に母校を訪れても生徒諸君との接触がなかった私は、このとき初めて、この孫娘のような女生徒たちが我が後輩なのだ、と実感したのだ。

あれから三年半、あの二人は疾うに巣立って、後に続く若者たちが同じように元氣一杯、長洲先生の銅像を仰ぎ見ながら跳び回っているに違いない。未来は常に次の世代に託されている。彼等が元氣なら我らの母校も亦、どっしりと根を張って存在し続けることだろう。同窓会報昨年号に、樹沢事業部長・井上広報部長が八十年活き続ける校訓と共に掲げていた「大河悠遠」を形にすればその一つはこういふことだ、私はそう得心している。

旧制岩村田中学校の誕生は一九二四年(大13)三月という。関東大震災後僅か半年、創立・開校にまつわる苦難は並大抵ではなかったろう。一九二九年(昭4)に世界大恐慌、不景気の余波の中で、私たちは生まれた。一九三〇年(昭5)と三十二年(昭6)、遅生まれの午と早生まれの未、が我が同期だ。私たちの世代には誕生の時から硝煙の匂いにつきまとう。満州事変、五・一五事件、国際連盟脱退(日中戦争)、支那事変(大平洋戦争)そして四十五年(昭20)敗戦。そのとき私たちは旧制中学校の三年生だった。命を捨てて祖国を護れと教えこまれていた十五歳だった。

この三月で私は満73歳になった。幼いころ理想化していた老人像とは大違い、いざ我が身に馬齢を重ねてみれば只の渾垂れ、社会への貢献は全くない。せめて人さまに迷惑を掛けまいと健康志向、運動嫌いに鞭打ってせせと歩く。田んぼ里山を縫って歩けば結構楽しい。敬神崇祖の土地柄か、市内(千葉県四街道市)農村部には小さい社や寺が数多い。境内に「大日本は神国なり」と彫った石碑が立っていたりする。歩きながら碑文どうこうと屁理屈捏ねても独り歩き、「信州人は理屈っぽい」などと言われるおそれはない。

我が同期の入学年は四十二年(昭18)、卒業は三十二年(昭8)分かれて①旧制中学五年卒は四十八年(昭23)(旧中21回)②この年実施の新学制で新制高校三年卒なら翌四十九年(昭24)(高一回)。旧制四年修了を数えれば、何と三度も「卒業」出来たなんて！

次は複数年次に共通の経験で「疎開」という名の大きな移動のこと。四十四年(昭19)、アメリカ空軍の無差別爆撃、物資の極端な欠乏、物流機能の麻痺は日増しに悪化していた。政府は戦争続行に必要なあらゆるものを大都市から地方に分散して温存する号令を発した。移動自体が既に困難を極める中、人と物の大移動が起こったのだ。

教室では毎日転入生の紹介が行われ、学級数が増えた。運動場には工場疎開して来た自動車生産用の工作機械がギッシリ並んで、人手不足のために何カ月も風雨に晒されたままだった。私の父方の祖父は木曾上

御代田町広戸の生。父の旧姓は小林、結婚時強く請われて形而上的にのみ富者だった柳澤繁太郎の養子になった。私の一家は東京に住み、毎年子供たちは夏休みを待ちかねては広戸に帰省してブヨに刺されていた。四十四年(昭19)五月、我が家は東京の下町から都下の西多摩郡に疎開し、更に翌年五月に広戸に再疎開した。「知恵の塊」祖父繁太郎も名村長の誉れ高かった大叔父森三郎も当時は健在だった。敬愛する彼等にじっくり話を聞く機会が遂になかったことが残念だ。

五月初めのある日、浅間火山灰の道を8kmポクポク歩いて岩村田まで。転入学の手続きをして私は岩中生になった。三年西組、担任は角田先生。同じ日、耳大きくマントヒヒに似た風貌(と、その時は感じた)の紳士が私より年下の少年を連れて転入手続きをしていた。後で、平根に疎開して来た佐藤春夫と知った。

しかし、「疎開」の功績は私にとつては小さなものではない。確氷峠の手前から「大浅岳」を望んで、いつも乙女のように胸ときめかす：この気持ちが全てを語りつとられる。美しい自然、よき師よき友我が母校、授かったこの得難い宝物を一生大切に覚えていきます。(あの戦争中もつと辛い思いをされた先輩方には強い憚りの気持を持ちながら書きました。)

教室では毎日転入生の紹介が行われ、学級数が増えた。運動場には工場疎開して来た自動車生産用の工作機械がギッシリ並んで、人手不足のために何カ月も風雨に晒されたままだった。私の父方の祖父は木曾上

御代田町広戸の生。父の旧姓は小林、結婚時強く請われて形而上的にのみ富者だった柳澤繁太郎の養子になった。私の一家は東京に住み、毎年子供たちは夏休みを待ちかねては広戸に帰省してブヨに刺されていた。四十四年(昭19)五月、我が家は東京の下町から都下の西多摩郡に疎開し、更に翌年五月に広戸に再疎開した。「知恵の塊」祖父繁太郎も名村長の誉れ高かった大叔父森三郎も当時は健在だった。敬愛する彼等にじっくり話を聞く機会が遂になかったことが残念だ。

五月初めのある日、浅間火山灰の道を8kmポクポク歩いて岩村田まで。転入学の手続きをして私は岩中生になった。三年西組、担任は角田先生。同じ日、耳大きくマントヒヒに似た風貌(と、その時は感じた)の紳士が私より年下の少年を連れて転入手続きをしていた。後で、平根に疎開して来た佐藤春夫と知った。

しかし、「疎開」の功績は私にとつては小さなものではない。確氷峠の手前から「大浅岳」を望んで、いつも乙女のように胸ときめかす：この気持ちが全てを語りつとられる。美しい自然、よき師よき友我が母校、授かったこの得難い宝物を一生大切に覚えていきます。(あの戦争中もつと辛い思いをされた先輩方には強い憚りの気持を持ちながら書きました。)

又、イラク派遣の諸隊が一兵も損なうことなく一日も早く帰国出来るよう心から願っています。(旧中21回 柳澤洋一)



現代性あふれて新鮮

「現展賞」受賞の快挙

美斉津経夫氏(高6回・武蔵野美大を経て中学校教諭)が、現代美術家協会主催の「第59回現展」で、計586点もの出品作から最高賞の「現展賞」の栄誉に輝いた。受賞作「兆し03」は、軽井沢町の熊野神社で出合った県指定天然記念物「シナノキ」に、古木が発



個展」と、本会報でも伝えられた。

新聞等に投・寄稿を一冊に 熱き想い「故山悠久」を自費出版

井上文雄氏(旧中21回)が、定年後のつれづれに、古里への温かな眼差しと、鋭敏な感性で社会を広く見据え、新聞・雑誌・関係団体の会報、行政の広報紙に投・寄稿したうちの百三十編を選び、「故山悠久」と題した好著を出版した。数年前から、多くの読者や大小の出版社より「一冊の本にまとめた」と、しきりに勧められ腰を上げての上梓だが、有力紙や地元新聞が大きく報道したことから、県内各地に反響を呼んだ。「投稿集を一冊にまとめる」とは、滅多にないこと、素晴らしい」と、同窓会代表顧問の金澤俊之医博が、発起人となって各界に呼び掛け、母校近くのホテルで昨

秋、出版記念会が盛大に催された。菊薫る文化の日、信毎論説主幹・歴代同窓会長、旧現の佐久市長・岩高出身の県議・弁護士会・裁判所調停委員協会・浅間総合病院長・小諸警察署長・小中学校の級友・音楽関係者・スポーツダンス団体・県長寿社会開発センター等々が一堂に集って祝福し、百歳と米寿の恩師、遠くアラスカの世界の科学者の旧友、小諸市長・教育長などから身に染み入るメッセージが続々寄せられ、井上氏の多方面の活動と、幅広い交際を印象づけた。

竹馬の友、小澤昭雄氏の周到な準備と、糊澤仁氏の洗練された見事な司会で、佐久市立近代美術館特別企画展「高見澤柳佳(禮子・高4回) 遺作展」を開催期間 平成16年9月4日～10月24日 開催場所 佐久市駒場 佐久市立近代美術館

みずぶ文芸

俳壇

五倍子(旧中16回) 新年・初晴や刀紋雲引く日本刀 春・帰る鳥湖心に風を読んでゐる 夏・風食べる如く風鈴鳴りにけり 秋・落葉松のはらはら落葉時雨かな 冬・逃げたがる冬日あつめる虫眼鏡

歌壇

森泉 克子(岩女14回) 余すなく山桜咲きひそけくも 鄙の華やぎここに極まる 草色は日々深山を上りゆき 浅間夏いろ今日更衣 猛り狂ふ寒波は越後を雪に埋め 浅間に荒れて佐久は風花 たった今を去年となして秒針が カチツト決める二〇〇一年 天と地の恵のなかに争はぬ 八百年の杉を見上げる

柳壇

山崎 英夫(旧中21回) 青春の扉が開く母校かな 禿げ具合合つてニヤリ同期生 ヤーと言ひハテナと名前喉仏 うっかりが病み付きになる赤絨氈 土俵上巴投げする次期総理

「注意ください」

最近、本校同窓会の自宅等に同窓会および学校の事務職員を名乗って「住所や電話番号等を教えてくれ」等の電話が頻繁にかかってきて困るとの苦情が学校に相次いで寄せられています。学校および同窓会では電話による照会等は致しておりません。これらの電話による照会には岩村田高校とは一切関係がありませんので、十分にご留意頂きますようお願いいたします。

平成15年度岩村田高等学校同窓会一般会計決算書

収入総額 4,295,098円 支出総額 4,169,405円 差引残額 125,693円 自平成15年4月1日～至平成16年3月31日 岩村田高等学校同窓会長 鈴木 公人

平成16年度岩村田高等学校同窓会一般会計予算書(案)

収入総額 3,960,000円 支出総額 3,960,000円 差引残額 0円 自平成16年4月1日～至平成17年3月31日 岩村田高等学校同窓会長 鈴木 公人

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 増減, 摘要. It details the financial results for the 15th fiscal year, showing a surplus of 125,693 yen.

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 前年度対比, 摘要. It details the proposed budget for the 16th fiscal year, showing a balanced budget of 0 yen.

※尚、予算に過不足が生じた場合、正副会長相談の上、一任させていただきます。

同窓会ニュース

岩高同窓生「慶事・表彰」一覧

- List of events and awards including: 長野地方裁判所長感謝状, 佐久裁判所調停委員協会感謝状, 長野県小諸警察署協議会会長就任, 井上文雄氏(旧中21回) 理事長表彰, 小澤昭雄氏(旧中21回) 理事長表彰, 高齡健康優良者表彰, 長野県長寿社会開発センター 理事長表彰, 15周年記念県老人大学講師 (財)長野県長寿社会開発センター 佐久支部賛助会グループ長会長就任, 糊澤仁氏(高1回), 旭日双光章(11月) 神津和男氏(高2回), 紺綬褒章(4月) 丸山昭一氏(高3回), 現代美術家協会現展賞 佐久美術会会長就任 美斉津経夫氏(高6回), 佐久平美術展奨励賞 佐久美術展創造館長賞 小野沢信子氏(高8回), 長野県社会体育有功賞 田島義忠氏(高8回), 東信特定郵便局長会会長就任 美斉津洋夫氏(高14回), 佐久平美術展奨励賞(彫刻の部) 小平裕一氏(高31回), (財)光風会第90回記念展工芸の部記念賞 佐久広域連合賞(佐久美術展工芸の部) 鈴木順子氏(高33回)

二〇〇四年度入試状況

進学係 加藤 順

『いい学校を出て、いい会社に入れば安心』という時代は終わりました」と紹介されているのは昨年冬出版された「十三歳のハローワーク」(著者・村上龍)だ。日本全体の流れがこの通りなのかは定かではないが、一部でこのように「いい学校」に入っても安心できないという流れが始まっているのは確かだ。

このメッセージは、同時に『いい学校』とは、誰が決める『いい学校』なのか

と疑問を投げかけている。生徒自身が決めたのであればよいが、予備校が決めた偏差値の高い学校が必ずしも「いい学校」とは限らない。

週刊ダイヤモンド5月15日号に「役に立つ大学」という題の記事がある。国内企業が評価した大学表1は必ずしも予備校の偏差値の順序と一致しない。

進路室は3台の生徒用パソコンがあり、インターネットに接続されている。生徒

徒自身の手で自由に学校を検索し必要な情報を手に入れることができる。生徒諸君は職員のアドバイスを聞くと同時に自分自身にとっての「いい学校」を探す。自分のやりたいことは何なのかを考えた、自分の行きたい学校はどこなのかを探索している。

進路室を訪ね学校を紹介する人たちは多いときには1日10人以上にもなる。学校紹介の話にも熱がこもるし、生き残るのに懸命な姿がにじみでる。受験生諸君の一生懸命さと同じだ。

ある学校は企業から経営者をヘッドハンティングして学校改革に着手している。学校は学校同士の競争に負けないとされている。

在校生諸君の健闘を祈りたい。

学校だより



平成十五年度就職状況

就職係 川島 國裕

生産の海外シフトが行なわれ、IT不況といわれる現在、小諸・佐久管内の各職安の高校生の求人受付件数は昨年並みとなった。

本校への求人件数は小諸・佐久管内の求人件数が昨年並みで、県外の求人件数が若干減少した為、昨年より四

件少ない一四一件であった。ここ数年、建設業・事務職の求人は少なく、また、関東地区の求人中心である理美容、飲食業などのサービス業も減少した。

管内・県内からの求人は製造業が中心であるが、本校生徒が希望する地元製造

業の求人が昨年並みの為、本校の就職活動はかなり厳しいものとなった。

県外・関東地区からの求人は、昨年よりインターネットによる求人検索が可能になった為か、本校生徒が希望するような製造業、事務などの求人はほとんど無かった。

公務員試験の倍率は今回も高く狭き門だったが、昨年度とほぼ同数の生徒が受験し、難関の国家三種二名、佐久市役所一名、合計三名が採用された。(昨年度は七名) 辞退をしたが、国家

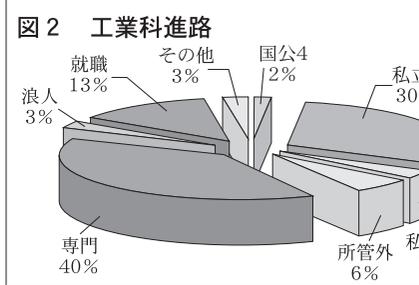
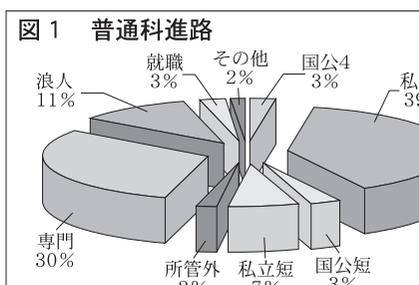


表2 主な合格校

大学名	合格者数
金沢大	1人
新潟大	1人
信州大	3人
上越教育大	1人
群馬県立女子大	1人
長野県看護大	1人
明治大	1人
法政大	1人
専修大	3人
日本大	9人
東海大	6人
東京農大	1人
神奈川大	1人
駒沢大	3人
京都女子大	1人
東洋大	4人
東京電機大	2人
成蹊大	2人
龍谷大	1人
和光大	1人

表1 役に立つ大学ランキング

早稲田大学・文系	1位
早稲田大学・理系	2位
慶應義塾大学・文系	3位
京都大学・理系	4位
東京工業大学	5位
一橋大学	6位
慶應義塾大学・理系	7位
大阪大学・理系	8位
東京大学・理系	9位
東北大学・理系	10位
東京理科大学	11位
同志社大学・文系	12位
明治大学・文系	13位
京都大学・文系	14位
九州大学・理系	15位
上智大学	16位
慶應義塾大学・湘南藤沢	17位
立命館大学・文系	18位
横浜国立大学・理系	19位
中央大学・文系	20位

現場から

運動部長 高橋 正明

昨年度の全国高校総合体育大会への出場は、陸上競技の男子3名(砲丸投1、やり投2)のみで、春の北信越大会へは、陸上男子、剣道男子・女子、卓球男子・女子、空手道女子が、秋冬の北信越(新人)へは、陸上男子・剣道女子・卓球女子が会場と例年なみの結果でした。

県代表として、北信越・全国大会への出場は、本校の現状から、なかなか厳しいものがあります。中学時に活躍した選手を県下各地



文化部の近況

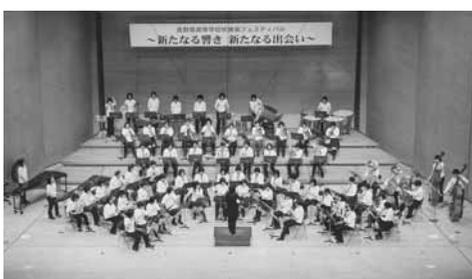
文化部長 竹内 修一

昨年十月に上田市を主会場に第十回長野県高等学校総合文化祭が行われました。東信地区での開催も三回目となりました。多くの専門部が八月に開催された全国高等学校総合文化祭の凱旋展に位置づけられていますが、そのオープニングセレモニーの演奏を担当したのが、二年連続東海大会に出場したIHBCこと、本校の吹奏楽班でした。音楽班も合唱で加わり、華やかな開会式となりました。

演劇、邦楽、書道、将棋の各クラブも演奏、出場、もしくはスタッフとして参加し、交流を深めました。

また、将棋同好会はSB Cの高校名人戦に参加し、対局の様子が、電気班のロボコン同様、ニュースで報じられました。

美術班もこつこつと力を付け、今年も美大への進学を果たしました。



編集余滴

△開校八十周年の輝く歴史を刻んだことから、ご要望に応え本号は増ページで特集した。いたらぬこと多々あれどご容赦を。

△豚も編れば木に登るの譬え。「毎年楽しみに待ち侘びている」母校の近況、恩師・級友の消息を気にしながら、故郷を懐かしんでいる「苦労様、燃えるゴミに出せないで読み返している」等々の電話・手紙に励まされては、老骨に鞭うつ仕儀となる。

△こうしたエールの多くは、他県在住者から「ふるりは遠くに在りて憶うもの」と、かつての自身の単身赴任時代の哀歌が重なる。

△母校創立奉寿八十周年を視点に据え、記念事業全般に因り、佐藤教頭に執筆を依頼。ご多用の身ながら快諾を得た。21世紀に即した同先生の学校設備充実に向けての、熱情溢れる玉稿に深謝。

△時折、同窓会事務で母校を訪ねるたび、行き交う在校生らの爽やかな挨拶に接し、心が和む。朝夕の一言の挨拶こそ、教育と驕の原点と思う。この美風を伝統的にしたいもの。

△高校生活の最初で最後の入学・卒業式における、吹奏楽班の実に見事な演奏が胸を博ち、感動の式典気分が高揚する。

△今春の卒業証書授与式では素敵な和装姿が目まぐるしく、前年同様に十数名もの皆勤生徒がいたことを大いに讃え拍手する。

△不況と犯罪多発、内憂外患の世だが、頑張れ岩高健児! (井上 記)

その一方で、部員不足から廃部や同好会への降格におこまれたクラブもあり、更にいくつかのクラブで存続が危ぶまれているのも事実です。

創立八十周年を迎える今年度、新たな文化系クラブのあり方を全クラブあげて模索する時がやってきたといえるのかもしれない。

同窓会の皆様による一層のご指導、更なるご支援を切に願います次第です。

